

本日は第21回卒業証書授与式を挙げていただきますこと、大変嬉しく思っております。私たちの大切な素晴らしい生徒達を、心を込めて送り出したいという多くの人々の願いが実を結んだ結果このような形の卒業式となりました。私の教師生活42年間の中で一番記憶に残る卒業式であると思います。

419名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。

私は君達が入学した3年前にこんなことを話しました。

携帯電話と君達の間にはドラマは生まれません。ドラマは人と人との間、君達と君達の仲間、周りの人々との間に生まれるのです。ドラマの数だけ成長があり、思い出や感動が増えていくはずですよ。

さて、この3年間で皆さんの中にドラマは生まれましたか。成長を実感できましたか。そして、多くの感動が心の成長を生み出し、人間としての豊かさを育ててくれたたでしょうか。

授業での新しい発見、希望の学部が決まった時の喜び、部活動で全国大会を決めた瞬間、両親と進路を巡っての口論、全国大会のひのき舞台での精一杯のパフォーマンス、あと一歩で逃した勝利、遠く故郷に住む両親を思いながら涙した日々、仲間と夜を徹して語り合ったあの日、ゴールの見えない受験勉強、グラウンドで流した涙、クラスが一丸となった多くの行事、卒業まであとわずかしかなないと悲しい思いにとらわれた夕暮れの教室。窓からは雪に覆われた富士が見えたはずですよ。

数々のドラマを今君たちは思い出しているのではないのでしょうか。ひとつひとつの数え切れない多くのドラマが今の君たちを作ってきたのだと私は思います。

高校生活の勝利とはなんでしょう。それは次の3つに集約されると私は思っています。

1. 今隣にいるこの仲間たちと毎日、楽しく過ごせた。
2. 翔洋の先生たちと出会えて良かった。
3. 静岡翔洋で青春時代を過ごせて楽しかった。

こう思えるのであれば、きっと素晴らしい高校生活、充実した高校生活、価値あるドラマがたくさん生まれた高校生活であつたろうと思います。そして、私たちもそのような言葉を君たちから聞くことができたなら、これ以上の喜びに勝るものはないと思うのです。

さて、今の社会に目を転ずれば、必ずしも明るい未来が待っていると断言できないかもしれません。けれども、21世紀を作っていくのはまさしく君達です。私たちの世代はもうじきこのステージから退場していきます。

しかし、君達は違います。今よりもより良い時代を作り、担っていく責務が君達にはあります。かつて人類はさまざまな脅威や困難、見えない恐怖に遭遇してきました。しかし、そのたびごとに、人は知恵を出し合い、工夫し、研究して多くの不幸や苦しみ、悲劇を克服してきたのです。これからは君たちがそれを成し遂げるのです。我々の目の前に立ちだかっている脅威に敢然と立ち向かい、必ず克服し、前進して行くものと

信じます。

また、人はしばしば「未来への不安」と「過去への後悔」の狭間で立ち止まります。「未来への不安」というのは、うまく行かなかったらどうしよう、失敗したらもうだめだとまだ何も起きていないのに思い悩むこと。一方「過去への後悔」とは、いつまでも失敗を引きずってしまう、もう終わったことなのにくよくよと悩む、努力をさほどしてもしないのに結果を悔むことであると思います。

今後の君たちの人生において「未来への不安」と「過去への後悔」の狭間で立ち止まって動けなくなる時が来るかもしれません。

その時は、どうか高校時代のことを思い出してください。楽しく懐かしい思い出ばかりではなく、友との語らいの中で学んだこと、苦しくとも歯を食いしばって毎日練習に明け暮れたこと、辛くてもやり遂げようと決意した日、先生たちの厳しい言葉、夢実現のために必死に勉強した姿、三保の砂浜で夕日を背に走ったあの砂の感触、そんな思い出も脳裏に浮かべてほしいのです。1000日の高校生活は単なる思い出としてではなく、貴重な人生の経験として、君たちが一歩前へ進むヒントやきっかけを教えてください。

卒業生の皆さん、静岡翔洋高校からは悠久の姿をとどめる美しい富士が見えます。  
永遠にそびえ立つ富士のように皆さんの仲間と培ってきた友情もいつまでも続くこと  
でしょう。

ここ静岡翔洋で過ごした青春時代は二度と戻っては来ません。

静岡翔洋は明日から母校となり、思い出の場所になりますが、その思い出を共有できる友がいるということは、素晴らしいことなのです。そして、君達にとって母校静岡翔洋が生きる上での心の拠り所となってくれば大変嬉しいことだと私は思います。どうか、翔洋生らしく雄々しく、自らの抱く希望に向かって歩みを進めてください。希望こそ生きる原動力です。素晴らしい人生の「門出」となることを祈念致しまして、「告辞」といたします。卒業おめでとう。